

米粉用米に取り組む先進地（秋田県大潟村）を視察しました

県水田協議会では、水田を水田のまま活用でき、食料自給力・食料自給率の向上に資する米粉用米の取組を重点作物として推進しています。

平成21年産の取り組みは、90ヘクタールと大きく拡大したものの、県内に大規模な実需者がいないため、多くの流通経費を負担する必要があるなど、多くの課題をかかえています。

そこで、全国に先駆けて、生産者自らが企業を立ち上げ、生産・加工・販売まで一体的な取組を実施している、秋田県南秋田郡大潟村の取組を視察しました。

1 日 時：平成21年11月17日（火）～18日（水）

2 視察場所：大潟村水田農業推進協議会、
（株）大潟村あきたこまち生産者協会

3 参加者：稲作農家やNPO法人、地域水田農業推進協議会の構成員など
計32名

4 内 容

（1）大潟村水田農業推進協議会

大潟村の成り立ち及び水田農業の特徴
米粉を利用した今後の生産調整の取組 等

（2）（株）大潟村あきたこまち生産者協会

米粉麺を販売するに至った経緯
米粉を利用するにあたってのポイント及び今後の事業展開 等



5 参加者からの意見

- ・ 米粉の取り組みは、実需（販路）の開拓が非常に重要だと痛感した。
- ・ 米粉として販売するだけでなく、商品開発を行う必要があると強く感じた。
- ・ 生産者主導の取り組みであり、非常に参考となる部分があった。
- ・ 県内にも大型の加工施設をつくってほしい。
- ・ 米粉は来年度の施策次第ではビジネスチャンスになる。

